

2007年 医療安全管理部この1年

医療安全管理部参事 岩井 照代

2007年の医療安全管理部としての活動内容は、4月に当院の医療安全の基本である、名寄市立総合病院医療安全指針が完成し全部所に配布した。6月に改正医療法に従って薬品に係る安全体制や医療機器の使用に係る安全体制・感染対策に係る安全体制の項目を追加して充実を図っている。作成に関しては、各部署の協力を得られたことに感謝します。

研修はAEDに始まり23回、11種類の研修を実施しました。来年は参加型の研修を追加して、さらに充実した内容にしたいと考えています。

巡回の回数は46回実施しました。今年は、ノロウイルスのアウトブレイクを教訓に、感染の部分も含めた評価を行いました。感染に関しては認定看護師の配置が必要であり、配置が出来るようになるまで、出来る限りの感染防止体制作り、組織的な防止が出来ることを目的にしています。その他対策としてフィードバックした内容を、時間をかけて確認していくことを目標にします。4月から開始した手術説明書の実施状況調査は、47%から現在は78%と診療部の協力を頂いています。インフォームドコンセントの不足ということで聞いた時は納得しても、事が起きた段階では、聞いていないと言う事例がほとんどです。このことから医療側は何時・誰に・どんな内容の説明を行い・同意を得たかが証拠として重要である。その証拠を不足の無い様に添付しておくことが必要です。

このことによりトラブルを大きくしない要素と

なる。肺塞栓予防に関しても、予防の実施が訴訟時の大きな問題となっています。確実な予防の実施が必要となります。今年度は当院においても、何らかの対応が必要となった事例が8件ありました。中でも治療費等の費用が発生した例が5件あります。2年越しの事例もあります。当院も訴訟等の増加に伴う、患者さんの要求の変化を実感しています。今年あったレベル5において、家族との信頼関係が作られていて、ミスに対する説明にも理解を示してくれた事例がありました。ハーバード大学の医療事故：真実説明・謝罪マニュアルの内容にあるようなすばらしい物でした。

当院のデータとしてはレベル4・5のものが2006年は0.7%で2007年は1.1%と増加している。又部署的には看護部以外の報告件数は減少しているが、レベルの高い物に明らかな増加は見られない。レベル5に関しては急変が3件であり、発見が遅くなった事例には観察の面で問題はあるが、他の内容では問題は無かった。

2008年の目標として、事故発生時の対応が出来るように、ワークショップ方式の研修の実施により、実践的な対応体制の確保を目的に、報告体制の確立を行いたい。もう一つは現在のインシデント・アクシデント報告をコンピューターにより行う方法を、4月から導入予定であり、その準備を行っている。この事により業務の効率化と、分析業務の効率化が図れると考えています。

統一レベル	診療部	看護部	薬剤部	検査科	放射線科	臨床工学科	リハビリ	事務部	給食	その他	総計
レベル0a	1	96	6		1	11		1	12	46	174
レベル0b		3		1							4
レベル1	12	439	4	4	23	31	12	2	2	17	546
レベル2	4	101	1			2	3			1	112
レベル3a	2	22				1					25
レベル3b	2	12									14
レベル4a											0
レベル4b	1	2									3
レベル5	1	3									4
その他	7	59	1			2		3	1	1	74
総計	30	737	12	5	24	47	15	6	15	65	956